



## いのちを守る

能登半島地震において、1月1日16時10分頃  
全壊8,424棟を引き起こし、結果として死者300人が生じることとなった地震が発生しました。

日本赤十字社静岡県支部は  
人道実現のために、いのちを守る活動を続けました。





# 令和6年能登半島地震 静岡県支部の活動内容

県支部は、被災地の医療機関が回復する目途がたった5月2日までの間、救護班や日赤DMAT、こころのケア班、日赤医療コーディネートチーム18班、延べ498人の職員を派遣し、それぞれの活動を続け、被災地に安寧を届けました。



©日本赤十字社 / 渋谷敦志  
通行可能なルートを確認する救護班



救護班・  
日赤DMAT

11班 延べ330人

被災地住民のいのちを守るため、発災直後から被災地病院の診療支援や避難所等への巡回診療を実施



こころのケア班

4班 延べ69人

震災ショック、長引く避難生活等による被災者や支援者のストレス状態を軽減するため、ハンドケアや足湯等を行いながら傾聴を実施



日赤医療  
コーディネートチーム

3班 延べ55人

効率的な救護活動を行うため、被災市町ごとの医療ニーズの把握や日本医師会災害医療チーム(JMAT)等他の医療チームとの活動地域の調整等を実施



石川県支部災害  
対策本部支援等

延べ44人

人手が足りない災害対策本部を支援するため、派遣された救護班の受付、引継ぎ、情報共有、宿泊等の支援を実施

## いのちを守るためには…

～現地で活動した職員が感じたことをお伝えします～

耐震性のない木造家屋が多かったため、建物の倒壊により92人が亡くなられた

➡ 建物の耐震化や家具の固定が重要だと再認識した。



全壊した木造家屋 (輪島市)

主要幹線道路の損壊や雪が降り続くような厳寒により活動し難い状況であったため、支援が遅れた

➡ 水・食料は7日分!ローリングストックをしながら備蓄するのを感じた。

長期間・広範囲の断水があったため、トイレに行かずに済むよう飲食を控え栄養不足や脱水になるケースがあった

➡ 7日分(5回/日)の使い捨てトイレを備蓄するとともに、健康への悪影響を理解し、飲食を控えるのをやめることが大事だと思った。

自治会等で津波からの避難場所を決め訓練を行っており、津波による死者が少なかった

➡ 普段の訓練が役にたった。いざという時のために継続的に訓練に参加することが大切だと思った。

避難生活で、心身に負荷が生じたことなどが原因で70人が災害関連死と認定された

➡ 避難生活を無理なく過ごすには、  
トイレを清潔に保つ/T:トイレ  
温かく栄養のある食事を摂る/K:キッチン  
就寝環境を整える/B:ベッド  
いわゆる「TKB」を守ることが大切だと思った。

災害関連死で亡くなられた方の約7割が60歳以上の方だった

➡ 高齢者の多くは基礎疾患を抱えているなど、避難生活で影響を受けやすい。そのことを高齢者自身も、近くに高齢者がいる人も理解し配慮することが大切だと思った。

断水により生活用水の確保ができないため、風呂にも入れず衛生環境が悪化した

➡ 除菌シートの活用やドライシャンプー、ホットタオルを使い、身体を清潔にすることが大切だと思った。

被災地は高齢化率が特に高い地域であったため、自力で避難できない要配慮者が多かったが、隣近所で助け合うことで避難できた

➡ 隣近所で事前に要配慮者を把握し、避難体制を検討しておくことが大切だと思った。

今回の災害がもたらした死者300人のうち、圧死が92人、災害関連死は70人でした。命を守るためには・・・自宅で住み続けられるよう備えることが第一であると感じました。

赤十字では、  
災害に備える・役立つ講座を  
開催しています!

### 赤十字防災セミナー

平時の備えや、応急手当の方法、災害時の過ごし方などをお伝えします。



おうちのキケンについて学ぶ児童

### 災害時高齢者・ 乳幼児生活支援講習

避難生活が要配慮者に与える体調の変化やストレスおよび、その要因と対応をお伝えします。



リラクゼーションを学ぶ受講者

新たな講習です!

セミナー・講習の  
詳しい内容はこちら



お問い合わせ・お申し込みは記載の電話番号まで!

054-252-8131





## 奉仕団は、防災を考える児童と保護者の応援団!

～三ヶ日東小学校(青少年赤十字加盟校)×三ヶ日赤十字奉仕団の取り組み～

「災害時にも日常にも生かせる防災食づくり」をテーマに、三ヶ日東小学校で開催された「親子防災活動」では、児童や保護者と一緒に防災食としてピラフと豆乳プリンづくりを行いました。参加者は、包装食袋(耐熱性のポリ袋)に食材を入れ、大釜でゆでることにより、包装食袋による調理で美味しい食事を作ることができることを体験しました。

参加した児童からは

「包装食袋の調理は、意外に簡単に作れて、しかも美味しかった!」

保護者からは

「家に帰ってから防災について親子で話したいと思います。」との感想が寄せられました。包装食袋を使った防災食づくりのおかげで、家庭で災害について考えるきっかけになりました。



包装食袋で調理をする児童と奉仕団員

フォローは  
こちらから



X(旧Twitter)では、ボランティア、青少年赤十字、講習、救護活動などの情報を発信しています。

PRESENT!

## ハートちゃんウェットティッシュを20名様にプレゼント!

以下を明記の上、WEB・メール・郵送でご応募ください。

- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかVol.135のご意見・ご感想
- ⑤赤十字しずおかで、今後取り上げてほしい情報

※回覧でご覧いただいた方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、[Vol.135希望]とお書きください。なお、プレゼントのご応募と同時に申し込みいただく場合は、①～⑤を明記の上、応募締切日必着をお願いします。

応募方法

WEB



メール



koho@shizuoka.jrc.or.jp

郵送

〒420-0853  
静岡市葵区追手町44-17  
日本赤十字社  
静岡県支部組織振興課

応募締切

令和6年10月31日(木) 必着

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

静岡県支部

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17  
TEL 054-252-8131 <https://www.jrc.or.jp/chapter/shizuoka/>



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。